

《書道コンクール》

I 募集要項

1. 応募資格

福島県内の小学校および中学校（義務教育学校等を含む）、特別支援学校の小学部・中学部（以下「小・中学校」という。）に在籍する児童・生徒とします。

2. コンクールの主催

コンクールは福島県内の「農業協同組合」（以下「JA」という。）と「全国共済農業協同組合連合会福島県本部」（以下「県本部」という。）が主催し、参加作品の募集は、各JAの管轄区域内における小・中学校を対象に実施することとします。

3. 応募手順

コンクールへの参加作品は、各小・中学校から所在区域を管轄するJAを経由し、県本部へ応募することとします。

「応募者一覧」「奨励賞推薦書」に必要事項を記載し、応募作品には「出品券」を貼付してください。

※「応募者一覧表」「奨励賞推薦書」「出品券」は、募集要項に同封いたします。

4. 応募点数

コンクールへの応募点数は、「半紙の部」「条幅の部」とも各学年のクラス数までとします。

- (1) 各学年の制作点数*が各学年のクラス数を超過した場合は、各学年ごとに応募作品を選定してからJAへ応募してください。

（*制作点数・・・児童・生徒が学校に提出した作品数）

- (2) 「特別支援学級」「複式学級」のクラス数および応募点数の考え方

◆特別支援学級◆

在籍している児童・生徒の学年に1クラスを加算してください。

【例】各学年1クラスの小学校で、支援学級に「1年生」「5年生」の児童が在籍している場合

第1学年⇒1クラス+1=2クラス（作品応募点数の上限は2点）

第5学年⇒1クラス+1=2クラス（ 〃 2点）

第2・3・4・6学年⇒各1クラス（ 〃 各クラス1点）

◆複式学級◆

学年ごとに1クラスとしてください。

【例】第1学年と第2学年が複式学級となっている場合

第1学年⇒1クラス（作品応募点数の上限は1点）

第2学年⇒1クラス（ 〃 1点）

5. 応募締切日

令和8年8月31日（月） 各小・中学校の所在区域を管轄するJA必着とします。

6. 審査委員

審査委員長・副委員長： 福島県教育委員会

審査委員： 後援・協賛団体の代表

全国共済農業協同組合連合会 福島県本部

7. 賞（福島県コンクール）

【個人】

（1）半紙の部

① J A 共済連福島 本部長賞

ア	金賞	各学年	1点	(賞状・副賞)
イ	審査委員特別賞	各学年	1点	(賞状・副賞)
ウ	第70回記念特別賞	各学年	1点	(賞状・副賞)
エ	銀賞	各学年	2点	(賞状・副賞)
オ	銅賞	各学年	3点	(賞状・副賞)
カ	佳作	各学年	4点	(賞状・副賞)

②特別賞

ア	福島県知事賞	上記①アより1点	(賞状・副賞)
イ	福島県教育委員会教育長賞	上記①アより1点	(賞状・副賞)
ウ	協賛団体賞	上記①ア・イより8点	(賞状・副賞)

（2）条幅の部

① J A 共済連福島 本部長賞

ア	金賞	各学年	1点	(賞状・副賞)
イ	審査委員特別賞	各学年	1点	(賞状・副賞)
ウ	第70回記念特別賞	各学年	1点	(賞状・副賞)
エ	銀賞	各学年	2点	(賞状・副賞)
オ	銅賞	各学年	3点	(賞状・副賞)
カ	佳作	各学年	4点	(賞状・副賞)

②特別賞

ア	福島県知事賞	上記①アより1点	(賞状・副賞)
イ	福島県教育委員会教育長賞	上記①アより1点	(賞状・副賞)
ウ	協賛団体賞	上記①ア・イより8点	(賞状・副賞)

【団体】

「学校賞」	小学校	1校	(賞状・副賞)
	中学校	1校	(賞状・副賞)

ー選定基準ー

【個人賞】① J A 共済連福島 本部長賞の各賞について、金賞・審査委員特別賞を各4点、第70回記念特別賞・銀賞を各3点、銅賞2点、佳作1点と配点し、半紙の部・条幅の部を合わせた合計点数が最も高い学校に対して授与します。

合計点数が同点の場合は、上位の賞への入賞がある学校を優先します。

【奨励賞】

「奨励賞」	各小学校	1点	(賞状)
	各中学校	1点	(賞状)

各小・中学校より応募いただいた作品の中から、学校長の推薦を受けた児童・生徒の作品1点に対し授与します。(半紙の部・条幅の部を合わせた書道の部で1点)

「奨励賞推薦書」に記入し、「応募者一覧表」と一緒に提出ください。

- ① 応募者の中から2名を推薦願います。(第1順位、第2順位)
- ② 第1順位の推薦を受けた児童・生徒が個人賞(1)・(2)の①ア～カのいずれかに入賞した場合、第2順位の推薦を受けた児童・生徒に授与いたします。
- ③ 第2順位の推薦を受けた児童・生徒も個人賞(1)・(2)の①ア～カのいずれかに入賞している場合、奨励賞の授与はありませんのでご了承ください。

ただし、「奨励賞推薦書」で推薦があった場合でも、次の場合には該当しないものとします。

- ① 推薦を受けた児童・生徒の作品が規格相違等により審査対象外となった場合
- ② 奨励賞推薦書に学校長の押印がない場合

【参加賞】

コンクール参加者(作品制作者)全員に、記念品を贈呈します。

8. 入賞発表

9月中旬に各コンクールの審査会を行い、県内新聞紙上およびJ A共済連福島ホームページ等において入賞者を発表します。また、後日、J Aを通して各小・中学校にお知らせします。

表彰式は11月7日(土)を予定しています。

9. 全国コンクール

半紙の部・条幅の部とも、各学年の「金賞」作品を全国のコンクールへ出品します。

10. 著作権の扱いについて

応募作品の著作権および、作品の二次使用等に関する一切の権限(著作者人格権を侵害しない程度の加工を含む)は、応募のときから期間の制限なく全国共済農業協同組合連合会に帰属するものとします。

なお、応募作品については返却できませんのでご了承ください。

11. 個人情報の取扱いについて

応募者氏名、学校名等については、応募者名簿を作成する等のコンクール業務に必要な範囲でのみ使用します。また、入賞者の作品・氏名・学校名等については、適切であると判断した新聞・雑誌・ホームページへの掲載に使用することがあります。各種資材等の作成に使用する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

Ⅱ 課 題 等

1. 課 題

区分		半 紙 の 部	条 幅 の 部
小 学 生	第1学年	な え	れ き し
	第2学年	き ぼ う	は つ が
	第3学年	い ね か り	道 し る べ
	第4学年	信 念	種 ま く 時
	第5学年	幸 せ の 輪	伝 統 の 美
	第6学年	将 来 の 姿	地 域 の 未 来
中 学 生	第1学年	文 化 遺 産	命 育 む 農 業
	第2学年	地 域 貢 献	☆ 柔 軟 な 思 考
	第3学年	雲 外 蒼 天	豊 穡 の 喜 び

2. 作品応募規格

☆「思想」ではなく「思考」が正しいです。

(1) 応募作品

①用 紙 ア. 半紙の部・・・タテ約33cm×ヨコ約24cm

イ. 条幅の部・・・タテ約136cm×ヨコ約35cm（画仙紙半切）

※ 一般的に使用されるものと異なるサイズの紙では審査対象となりません。

※ 紙のサイズは地域によって多少異なります。（上記サイズより長短3cm程度までは可とします。）

※ 上記ア、イのどちらも「表装」・「裏打ち」・「押印」等はいしないでください。

②書 体 小学生は楷書、中学生は楷書または行書とします。

③字 体 小学校の学習指導要領（別表1）の学年別漢字配当表に示す字体に準ずるものとします。

(2) 学年・氏名の記入方法

作品への学年・氏名の記入は次のとおりとします（図例1・2）。

(学 年)	(氏 名)
○ 年	○○○○○

① 小学校第1学年および第2学年

学年・氏名とも「漢数字」「漢字」「ひらがな（カタカナも可）」のいずれでも可とします。
ただし、アラビア数字は使用しないでください。

② 小学校第3学年以上

学年は「漢数字」、氏名は原則「漢字」とします。

※ 義務教育学校等の学年表記については、学校の考え方に準じ、「七年、八年、九年」の表記を可能とします。

なお、次のア～エ（図例3～6）に該当する場合は、審査の対象にはなりませんのでご注意ください。

ア. 学年、氏名のないもの（図例3）

イ. 小・中学校の別を記入したもの（図例4）

ウ. 学校名を記入したもの（図例5） ※学校名のスタンプ等も押さないでください。

エ. 学年と氏名の順を誤って記入したもの（図例6）

正しい書き方		誤った書き方			
図例 1	図例 2	図例 3	図例 4		図例 5
一年 共済太郎 出品券	○ ○ 共済太郎 一年 ○ 出品券	出品券	小学校一年 共済太郎 出品券	小一 共済太郎 出品券	平河小学校一年 共済太郎 出品券
		学年・氏名のないもの	小・中学校の別を記入したもの		学校名を記入したもの
					学年・氏名の順を誤って記入したもの

※半紙3文字の課題の場合の文字配列は、「正しい書き方」図例2に示してあるとおりとし、その場合の学年・氏名の配置は、図例1、2どちらでも可とします。

作品に学校名のスタンプは押さないでください。

(3) 出品券の貼付け・記入方法

主催者より配付する「出品券」に、学年・氏名を記入し、必ず**応募作品の左下**に貼り付けてください。

フリガナ欄も必ず記入してください。

配付したもの以外を使用する場合は、次の例に示すようにタテ8cm×ヨコ12cmの用紙に、県名・学校名・学年・氏名・所属JA名を明記し、**応募作品の左下**に必ず貼り付けてください。なお、**出品券がついていない作品は審査の対象となりません**のでご注意ください。

<例> 【出品券の仕様】

【出品券の貼付け位置】

(作 品)	
県 名	福 島 県
フリガナ	
学 校 名	県・市・町・村 立 学 校
学 年	年
フリガナ	
氏 名	
フリガナ	
J A 名	J A

8 cm

12 cm

(拡大図)

○
年
氏
名

出品券

※「応募者一覧表」・「奨励賞推薦書」・「出品券」は、ホームページからもダウンロードできます。

<https://www.10action.jp> 10 アクションで検索できます。

Ⅲ 主催・後援・協賛団体

主 催 農業協同組合
全国共済農業協同組合連合会福島県本部

後 援 福島県
福島県教育委員会

協 賛 福島民報社
福島民友新聞社
ラジオ福島
福島テレビ
福島中央テレビ
福島放送
テレビユー福島
ふくしまFM

(順不同)

以 上

別表 1

小学校学習指導要領

学年別漢字配当表

第一学年	一 右 雨 円 王 音 下 火 花 貝 学 気 九 休 玉 金 空 月 犬 見 五 口 校 左 三 山 子 四 糸 字 耳 七 車 手 十 出 女 小 上 森 人 水 正 生 青 夕 石 赤 千 川 先 早 草 足 村 大 男 竹 中 虫 町 天 田 土 二 日 入 年 白 八 百 文 木 本 名 目 立 力 林 六 (80字)
第二学年	引 羽 雲 園 遠 何 科 夏 家 歌 画 回 会 海 絵 外 角 楽 活 間 丸 岩 顔 汽 記 帰 弓 牛 魚 京 強 教 近 兄 形 計 元 言 原 戸 古 午 後 語 工 公 広 交 光 考 行 高 黄 合 谷 國 黒 今 才 細 作 算 止 市 矢 姉 思 紙 寺 自 時 室 社 弱 首 秋 週 春 書 少 場 色 食 心 新 親 図 数 西 声 星 晴 切 雪 船 線 前 組 走 多 太 体 台 地 池 知 茶 昼 長 鳥 朝 直 通 弟 店 点 電 刀 冬 当 東 答 頭 同 道 読 内 南 肉 馬 壳 買 麦 半 番 父 風 分 聞 米 歩 母 方 北 毎 妹 万 明 鳴 毛 門 夜 野 友 用 曜 来 里 理 話 (160字)

第三学年	惡安暗匿委意育員院飲運泳馭央橫屋溫化荷界 開階寒感漢館岸起期客究急級宮球去橋業曲局 銀區苦具君係輕血決研鼎庫湖向幸港号根祭皿 仕死使始指齒詩次事持式寔写者主守取酒受州 拾終習集住重宿所暑助昭消商章勝乘植申身神 真深進世整昔全相送想息速族他打对待代第題 炭短談着注柱丁帳調追定庭笛鉄軫都度投豆島 湯登等動童農波配倍箱畑發反坂板皮悲美鼻筆 水表秒病品負部服福物平返尅放味命面問役藥 由油有遊予羊洋葉陽樣落流旅両緑礼列練路和 (200字)
第四学年	愛案以衣位茨印英榮媛塩岡億加果貨課芽賀改 械害街各覺馮完官管関観願岐希季旗器機議求 泣給拳漁共協鏡競極熊訓軍郡群徑景芸欠結建 健驗固功好香候康佐差菜最埼材崎昨札刷察參 産散殘氏司試児治滋辞鹿失借種周祝順初松笑 唱焼照城縄臣信井成省清静席積折節説浅戰選 然争倉巢束側統卒孫帯隊達単置仲沖兆低底的 典伝徒努灯働特徳枋奈梨熱念敗梅博阪飯飛必 票標不夫付府阜富副兵別辺変便包法望牧末満 未民無約勇要養浴利陸良料量輪類令冷例達老 勞録 (202字)

第五学年	庄圉移因永嘗衛易益液演忝往桜可仮恹河過快 解格確額刊幹慣眼紀基寄規喜技義逆久旧救居 許境均禁句型經潔件險檢限現減故個護効厚耕 航鉉構興講告混查再災婁採際在財罪殺雜酸贊 士支史志枝師資飼示似識質舍謝授修述術準序 招証象賞条状常情織職制性政勢精製稅責績接 設絕祖素總造像增則測属率損貸態团断築貯張 停提程適統堂銅導得毒独任燃能破犯判版比肥 非費備評貧布婦武復復仏粉編弁保墓報豐防貿 暴脉務夢迷綿輸余容略留領歷 (193字)
第六学年	胃異遺域宇映延沿恩我灰耘革閣割株干卷看簡 危机揮貴疑吸供胸鄉勤筋系敬警刺激穴券絹權 憲源蔽己呼誤后孝皇紅降鋼刻穀骨困砂座濟裁 策冊蚕至私姿視詞誌磁射捨尺若樹収宗就衆從 縱縮熟純処署諸除承将傷障蒸針仁垂推寸盛聖 誠舌宣專泉洗染錢善奏窓創装層操蔵臙存尊退 宅担探誕段暖値宙忠著片頂腸潮賃痛敵展討党 糖届難乳認納腦派拝背肺俳班晚否批秘俵腹奮 並陞閑片補暮宝訪亡忘棒枚幕密盟模訊郵優預 幼欲翌乱卵覽裏律臨朗論 (191字)

字体についての解説

明朝体と筆写の楷書との関係について

常用漢字表では、個々の漢字の字体（文字の骨組み）を、明朝体のうちの一種を例に用いて示した。このことは、これによって筆写の楷書における書き方の習慣を改めようとするものではない。字体としては同じであっても、明朝体の字形と筆写の楷書の字形との間には、いろいろな点で違いがある。それらは、印刷文字と手書き文字におけるそれぞれの習慣の相違に基づく表現の差と見るべきものである。以下に、分類して、それぞれの例を示す。いずれも「明朝体―手書き（筆写の楷書）」という形で、左側に明朝体、右側にそれを手書きした例を示す。

1 明朝体に特徴的な表現の仕方があるもの

(1) 折り方に関する例

衣－衣 去－去 玄－玄

(2) 点画の組合せ方に関する例

人－人 家－家 北－北

(3) 「筆押さえ」等に関する例

芝－芝 史－史
入－入 八－八

(4) 曲直に関する例

子－子 手－手 了－了

(5) その他

讠－讠 々－々 心－心

2 筆写の楷書では、いろいろな書き方があるもの

(1) 長短に関する例

雨 — 雨 雨 戸 — 戸 戸 戸
無 — 無 無

(2) 方向に関する例

風 — 風 風 比 — 比 比
仰 — 仰 仰
糸 — 糸 糸 𦉰 — 𦉰 𦉰 𦉰 — 𦉰 𦉰
主 — 主 主 言 — 言 言 言
年 — 年 年 年

(3) つけるか、はなすかに関する例

又 — 又 又 文 — 文 文
月 — 月 月
条 — 条 条 保 — 保 保

(4) はらうか、とめるかに関する例

奥 — 奥 奥 公 — 公 公
角 — 角 角 骨 — 骨 骨

(5) はねるか、とめるかに関する例

切	－	切	切	切	改	－	改	改	改
酒	－	酒	酒		陸	－	陸	陸	陸
穴	－	穴	穴	穴					
木	－	木	木		来	－	来	来	
糸	－	糸	糸		牛	－	牛	牛	
環	－	環	環						

(6) その他

令	－	令	令	外	－	外	外	外
女	－	女	女	叱	－	叱	叱	叱